

令和2年度 島根県技術士会 新年例会フォトレポート

島根県技術士会では、年1回、本会に所属する技術士が日頃の研究の成果を発表する新年例会を開催しています。

本年度は、令和3年1月23日（土）に松江市のくにびきメッセにおいて、令和2年度島根県技術士会新年例会（会場参加者44名）を開催しました。

今回は、新型コロナウイルス感染予防のため以下の対策を講じ、新たな試みとして、WEBによる講演会のライブ配信を行いました。

【感染予防対策】

- ・ 会場入り口での検温の実施
- ・ 37.5℃以上の熱のある方の参加のお断り
- ・ 参加者のマスクの着用と演台へのアクリル板の設置
- ・ 座席間隔を空けることによるソーシャルディスタンスの確保
- ・ 換気システムが搭載された会場の利用
- ・ 参加者を山陰両県在住者に限定



受付での検温の様子



演台の飛沫防止措置



大嶋研究部会長による開会挨拶

当日は、4つの分科会と個人研究の研究報告の発表がありました。

(1) 庭園文化研究分科会

- ・ 会員の方々のお庭を拝見しました 原 裕二

庭園文化研究分科会からは、本年度視察した出雲市及び松江市の6箇所の庭について、地質学的視点も交え、その特徴等について発表がありました。



(2) 今福線研究分科会

- ・ 令和2年度 活動報告 ～新たな展開に向けて～ 行武宗軌

今福線研究分科会からは、広島と浜田を結ぶ広浜鉄道（未成線）今福線について、岡山大学の樋口准教授とも連携して実施した活動の内容や、NPO法人江の川鉄道との交流などについての報告がありました。



(3) 生物多様性研究分科会 14:10～14:40

- ・ コウノトリに関する調査研究のまとめ(H29～R2) 北村 清

生物多様性研究分科会は、平成29年度から雲南省のコウノトリの餌生物量調査や土水路(よけじ)の調査、営巣したコウノトリと雛たちの行動調査など様々な調査研究を行っており、この活動内容についての発表がありました。



(4) 島根県B級遺産研究分科会

- ・ 島根県B級遺産(候補)「木・コンクリート合成桁橋」(中間報告3)

松浦寛司

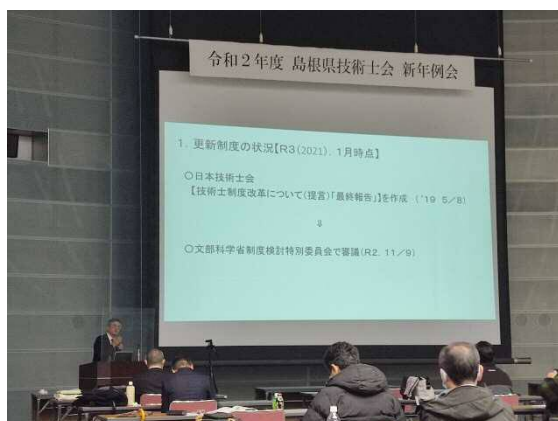
島根県B級遺産研究分科会からは、県内に現存する「木・コンクリート合成桁橋」である浜田橋について、本年度実施した3次元測量及び端部CCDカメラ調査による床版配筋状況の考察と主構造の検証など、取り組み成果の中間報告がありました。



各部会からの発表後、個人研究として、吉田技術士より青銅器の埋納位置の解説に関する発表がありました。



また、研究報告の後には、木佐会長より、導入が検討されている技術士資格の更新制度に関する情報提供が行われました。



本年度は懇親会の開催を見合わせましたが、新年例会全体を通じて、各発表に対して参加者から様々な質疑が寄せられ、活発な意見交換が行われました。

コロナ禍で、活動に制約を受ける状況にありますが、今後も各研究分科会を中心に、本会会員による調査研究を進める計画としています。